

大学・地域共創プラットフォーム香川

第2回地域活性化部会 資料

令和4年6月17日(金)

議	題 1	前回議論の振り返り	P 2,3
議	題 2	連携事例の共有	P 4～22
議	題 3	地域課題へのアプローチ等	P 23～30
議	題 4	令和4年度 of 取組みスケジュール案	P 31,32
参考資料 1		連携協定一覧等	P 33
参考資料 2		県内地域おこし協力隊の活動内容	P 34

議題 1 前回議論の振り返り

- | | |
|----------------------------------|------|
| ○ 情報共有の仕組み | (省略) |
| ○ 本県を取り巻く現状 | (省略) |
| ○ 地域活性化部会に期待すること | P3 |
| ○ 地域課題へのアプローチ等
(構成員マッチングイメージ) | P23～ |
| ○ 令和4年度スケジュール案 | P31～ |

1 地域活性化部会に期待すること

大学

- ・ 地域課題の解決に向けて、大学の強みを活かしDXを推進したい。
- ・ 学生の若い力（マンパワー）を使って地域貢献したい。
- ・ 大学の教育・研究力を活かして地域貢献したい。 など

これまでの
連携事例を
共有・整理
してみる

(R4.5.31第1回部会)

連携 共創

市町

- ・ 連携協定を結んで連携している大学はあるが、PFでは、複数の主体での取組みを期待する。
- ・ 大学等の教育・研究力を活用したいが、大学のマンパワーを活用する取組みがより実現しやすい。
- ・ 急速なデジタル化への対応が困難で、若い世代の参画が必要。
- ・ 特に若者世代と交流人口を増やしたい。
- ・ 新たな地域資源を発掘したい。 など

企業

- ・ 地域の困りごとの解決に関わっていきたい。
- ・ 地域課題があるということは、そこにビジネスチャンスがあるということ。
- ・ 学生に特色ある県内企業の存在やその仕事観を知ってもらいながら、共に地域課題を解決したい。 など

議題 2 連携事例の共有

2 連携事例の共有

【大学等】

香川大学 P6

四国学院大学 P7

徳島文理大学 P8

香川短期大学 P9

【経済団体】

香川県中小企業家同友会 P10,11

【市町、県】

高松市 P12

善通寺市 P13

観音寺市 P14

東かがわ市 P15

三豊市 P16

土庄町 P17

綾川町 P18

多度津町 P19

まんのう町 P20,21

香川県 P22

【瀬戸内地域活性化プロジェクトの事例紹介】（観音寺市×香川大学）

大学⇔自治体等

○観音寺市との連携「観音寺市定住促進プロジェクト」

- ・取組内容 : 平成25年度、COC事業を機に開始。「瀬戸内地域活性化プロジェクト」履修学生「観音寺班」による、廃校の利活用に関する運営補助、コンテンツツーリズムによる活性化、SNSを活用した市の魅力情報発信など、市と連携し取り組んでいる。
- ・注目ポイント : 同授業を履修している他市プロジェクトとの合同企画により両市の食材を活かした海鮮丼を共同開発(R4.6)
- ・限界ポイント : 同様プロジェクトは6市1町で実施。教員不足により拡大が見込めない。移動手段・予算の限界。
- ・PDCAサイクル : 年度末に市庁舎で活動報告会を実施
- ・参照先 : <https://www.facebook.com/toyohamaeki>（観音寺の魅力届け隊）



アニメコンテンツを活用した海岸清掃



三者で共同開発した海鮮丼

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- 7つのコミュセンを中心とした活動（東かがわ市⇔香川大学） <https://www.facebook.com/kagawa.u.hcd>（かがわクリエイティブデザイン）
- 図書館を中心とした街づくり（善通寺市×丸善雄松堂(株)×香川大学） <https://mobile.twitter.com/xyed3y/>（善通寺班Twitter）
- ひまわりオイルの販路拡大に関する活動（まんのう町⇔香川大学） 準備中

【連携取組の事例紹介】（四国学院大学）

○在院者に対して実施している社会適応訓練（ソーシャルスキルトレーニング）における教育連携

- ・取組内容：2020年度より本学・丸亀市・丸亀少女の家の3者で教育連携。
丸亀少女の家で行っている社会適応訓練のロールプレイに、本学の教員がスーパーバイザーとして入り、出院後の危機場面の再現性を高めるために、演劇教育を受けた経験のある者が在院者たちの相手役として参加し、想定外のことに即興で対応することで、在院者たちの想像力・表現力を向上させたり、ロールプレイの様子の記録や在院者のインタビュー調査の記録をもとに振り返りを行うことで、社会適応に向けた取り組みを行っている。今後引き続き、再犯が起こりにくい地域づくりや、少女たちの出院後の新しいコミュニティの創出に向けた行政・大学それぞれの役割分担やビジョンの共有をしていきながら、具体的な事業を実施していく予定。

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- 三豊市子どもの学習支援事業（三豊市⇄四国学院大学）
- 丸亀市放課後留守家庭児童会学童保育（丸亀市⇄四国学院大学）
- 綾川町夏のステップアップ勉強会（綾川町⇄四国学院大学）

【連携取組の事例紹介】（徳島文理大学）

○「平賀源内先生こども科学教室」

- ・取組内容 : 2007年より継続的に実施。平賀源内先生顕彰会・徳島文理大学理工学部・さぬき市教育委員会による共同開催。さぬき市の小学3～6年生を対象に、科学への興味喚起・理科教育支援を行っている。
- ・注目ポイント : 身近な材料を使用し、家庭でも実験などに取り組める。
(面白い点) スタッフとして参加した大学生を地域貢献人材として育成。
- ・限界ポイント : 体験を通した学びを深めるためには人数制限が必要。
(お困り点) コロナ禍の影響で2年連続中止。
- ・PDCAサイクル : 参加者へのアンケート等により毎年内容を改善。
- ・参照先 : <https://bit.ly/3MAZ0gV>



徳島文理大学香川キャンパス
地域連携センター
TEL: 087-899-7116
E-mail: renkei@kgw.bunri-u.ac.jp

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- 臨床工学科学生がスポーツ大会にAED救援隊としてボランティア参加（高松市 ⇄ 徳島文理大学） <https://bit.ly/3mqvX54HP>
- 文化財学科学生が古文書調査事業（小豆島町・土庄町） <https://bit.ly/3H6BiIC>

【連携取組の事例紹介】（香川短期大学）

大学等⇔自治体 大学等⇔企業・経済団体 など

○丸亀商工会議所、香川県農業協同組合との産学連携事業 『地元農産物を活用した食品レシピの開発』

令和3年10月から12月にかけて、丸亀商工会議所と香川県農業協同組合丸亀支店、本学生活文化学科食物栄養専攻の学生が連携し、形や大きさが規格外で市場に流通できない地元の農産物を用いて、家庭で楽しめる新たな食品レシピ等の開発に取り組みました。地元農産物のPRや食品ロスの削減、地産地消の促進に加え、コロナ禍におけるストレスの軽減や健康問題といった社会的課題の解決を目指しました。

また、サンプル品を商店街等で配布することで、商店街のPRや店舗の認知度向上を図ることができました。

- ・規格外商品の仕入とそれらを活用した食品レシピの考案（10～11月）
- ・学生考案のレシピをもとにサンプル品の製造、レシピの紹介（12月3日）
- ・商店街でのサンプル品の配布（12月19日）
- ・参照先：（丸亀商工会議所HP <https://www.marugame.or.jp/data/etc/recipe/>）



問い合わせ先

- 香川短期大学地域交流センター
TEL：0877-49-8030
- 丸亀商工会議所
TEL：0877-22-2371

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- カルチャー講座の開講（宇多津町⇔大学）https://www.kjc.ac.jp/category/culture_lesson/
- 古代米プロジェクト＜田植え体験、古代米を使った産品開発＞（宇多津商工会⇔大学）
- ホスピタリティ強化プロジェクト＜サインのデザイン、エントランスのレイアウト計画＞（香川労災病院⇔大学）
<https://www.kjc.ac.jp/gakka/31491/>
- 地産地消・食育、環境保全、子育て支援、高齢者福祉、生涯学習講座（高松市⇔大学）<https://www.kjc.ac.jp/othercate/39308/>

【連携取組の事例紹介】（一般社団法人香川県中小企業家同友会）

企業・経済団体⇔自治体

○セトウチメーカーズと四国経済産業局・自治体（東かがわ市）の支援連携

- ・取組内容 : (When) 2020年12月～
(Where) 東讃地域
(Who) 東讃エリアの縫製メーカー（※立ち上げ時）
(What) コロナ禍で打撃を受けた各社がお互いに連携・協力することで、それぞれが培ってきた技術と感性が発揮された独自製品を広く社会全体へ発信した。
(How) 過剰在庫をせずにエンドユーザーとコミュニケーションしながら、カスタムオーダーや別注オーダーなどのサービスを提供する工房メーカーならではの販売イベントの開催、東かがわ市で有名タレントによるライブイベントが開催された際は、メンバー同士が連携協力して多数のコラボ商品を開発し、発信から販売まで行う。
- ・注目ポイント : 地場のライバル企業間の技術・ノウハウ連携。各企業の自助と共助の取組に対しての行政の支援。地域の雇用を守るための新しい仕事づくり。
(面白い点)
- ・限界ポイント : 発信力の拡がりの限界。
(お困り点)
- ・PDCAサイクル : 同友会の例会での会員企業の課題抽出⇒企業連携の模索⇒セトウチメーカーズ立上げ⇒東かがわ市の広報活動への補助金支援⇒東かがわイベントに向けたコラボ商品開発⇒四国経済産業局の取材・発信⇒活動の検証・仲間づくり
- ・参照先 : セトウチメーカーズ <https://setouchimakers.jp/>
四国経済産業局・四国びと
<https://www.shikoku.meti.go.jp/shikokubito/interview/70/index.html>
菱えぽよエリアぶちアゲ活性化ツアーin東かがわ市コラボグッズ
<https://setouchimakers.jp/exit2021goods>



【連携取組の事例紹介】（一般社団法人香川県中小企業家同友会）

企業・経済団体⇔高校

○(一社)香川県中小企業家同友会と県立三木高校の連携

- ・取組内容 : (When) 2019年8月～
 (Where) 高松市以東
 (Who) 香川県中小企業家同友会会員企業約70社と三木高校総合学科1年生約70名
 (What) 「(学生側)ビジネスの現場を体感」「(企業側)若手人材の採用」という一般的なインターンシップの目的とは違い、**「(学生側)地元の企業や大人から働く意味学ぶ」「(企業側)自社の存在意義を明確にし、社員と共に学び、成長しあう」という目的**のもと、学校側と同友会が地域の未来のため（地域の若者を育て、地域に若者を残す）に連携して共育型インターンシップを行っている。
 (How) ジョブシャドウイング(インタビューシップ)という手法を用いて、2～3日間という期間で職場体験ではない企業研究的なインターンシップを実施。ご両親や地域の中学生、お年寄りに研究した企業をポスターセッションにてプレゼンする。
- ・注目ポイント : この取組みを通じて、若者が地域の中小企業の魅力や存在意義を知り、社会に触れることで小さな成功体験となって子供たちの大きな成長に繋がる。経営者としての在り方、社員との目的の共有、社員の成長に繋がる。若者は、自分の地元には素晴らしい企業があることを知り、大学で県外に行っても地元希望を持って帰ってくることが出来る。
 (面白い点)
- ・限界ポイント : 多くの高校から実施依頼の問い合わせが増えており、対応に追われている。
 (お困り点)
- ・PDCAサイクル : 山形同友会より共育型インターンシップを学ぶ⇒三木高校先生より新しいカタチのインターンシップ実施の相談⇒インタビューシップ実施に向けた企画⇒2019年実施⇒2020年コロナ禍による実施形態の変更⇒2021年感染防止策を講じての実施⇒包括的連携協定の締結⇒文部科学省にて表彰
- ・参照先 : かがわ経済ニュース <https://www.kagawabiz-news.media/todayskagawa/2800>



【高松市キャンパスメンバーズ制度】（高松市）

自治体⇔大学等 連携事業

香大生が作成した玉藻公園見どころMAP



- ・取組内容 : (When) 令和元年度から
(Where) 市有文化施設 6 施設 + 玉藻公園
(Who) 県内の大学・専門職短大・短大・高専 9 校の学生
(What) 無料で施設に入園又は施設の展示を観覧
(How) 学生証等の身分証の提示
- ・注目ポイント (面白い点) :
 - ・ 学生生活の文化的充実及び地域社会に関する学習の振興に貢献。
 - ・ 香大生が制度を活用しながら実施したフィールドワークによって、玉藻公園を学習し、若者ならではの「見どころMAP」を作成。
 - 授業での活用のみならず、**観光スポットの賑わい創出、施設がある地域への交流人口の拡大による地域活性化**の行政課題の解決にも貢献できる可能性あり。
- ・限界ポイント (お困り点) :
 - ・ 大学等ごとの利用者数にバラつきあり。また、学生にとって施設までの交通費は自己負担となるため、制度の利用に限界あり。
 - **交流人口の拡大の観点から民間事業者、特に民間の文化施設の事業者や交通事業者との連携の余地があり、大学等の魅力向上にもつながるのではないかな。**
- ・ PDCAサイクル : 香川県のキャンパスメンバーズ制度や学生の利用実績を勘案し、3年毎に、制度見直し。
- ・ 参照先 : <https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kurashi/josei/sonota/campasmenber.html>

【連携取組の事例紹介】（善通寺市）

善通寺市 ⇄ 株式会社セブン-イレブン・ジャパン

○包括連携協定事業

- ・取組内容 : ①本市の特産品の讃岐もち麦ダイシモチ麦を使用したオリジナルおはぎ→中四国地方のセブンで販売したところ、売り上げが和菓子部門で1位を獲得
- ②市内小学校でのSDGsの出前授業
- ③市内を週3日移動販売車での買い物支援
- ④高齢者等の見守り活動など
- ※令和4年度→「弘法大師空海御誕生1250年記念事業」との連携、讃岐もち麦ダイシモチ麦のコラボ商品の販売を予定

- ・注目ポイント（面白い点） : 民間企業のノウハウや活力を事業に活かし、これまでにない「新しい地域の力」として一緒に様々な事業に取り組む

- ・PDCAサイクル : 定期的な報告会で課題の情報共有を行っている

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

○「IT CAMP 2021」新図書館オープニング事業 香川大学チャレンジプロジェクトTERASUチームとの香川県伝統工芸品さぬき提灯事業とITキャンプ事業（東京のIT企業や専門学校との共創まちづくり）のコラボ（善通寺市⇄香川大学、日本電子専門学校、(株)ベースメントファクトリー、(株)ヘルツ）



当取組みの
問い合わせ先

善通寺市総務部政策課

【連携取組の事例紹介】（観音寺市）

自治体⇔大学等 自治体⇔企業・経済団体 など

○香川大学との連携

- ・取組内容 : 香川大学と連携して、定住促進プロジェクトを実施しています。
廃校を活用した街づくりとして、市内の小学生を対象に、ふるさと学芸館で、宿題教室と自由研究のイベントを開催しました。
計48名の子どもたちが参加し、大学生から夏休みの宿題のサポートを受けたり、揺れながら転がる「アルミたまご」や、水と油の性質を利用したオブジェを製作しました。



・参照先 :

<https://www.facebook.com/toyohamaeki/>



https://www.instagram.com/setp_kan_onji/



【連携取組の事例紹介】（東かがわ市）

自治体⇄大学

○香川大学との域学連携

- ・取組内容：
 - ・香川大学と東かがわ市は、平成24年に「包括的連携・協力に関する協定」を締結し、産業・文化・教育などの分野で相互に協力し「大学が有する専門的な知見・アイデア・地域で不足する若い人材力の活用」として、地域活動を行う地域コミュニティ協議会※の活動に対する支援を行っている。
 - ・地域課題の「調査」「分析」「提案」など、学術的な支援を行っている。
 - ・若い世代である大学生が得意なデジタルの分野に関わり、地域のデジタル・ディバイド解消として、大学と地域コミュニティ協議会との連携によるスマホ教室の開催、役員間の連絡手段としてLINEの導入など、デジタル分野の支援を行っている。
 - ・高校受験を控える市立中学3年生を対象に、大学生が講師となった寺子屋を開設し、高校入試対策として、自主学習などを支援している。
- ・限界ポイント：
 - ・複数の主体での取組みへの発展（特に企業との新たな連携・取組み）
 - ・東かがわ市のみではなく、広域的な取組み
- ・PDCAサイクル：
 - ・年度当初の協議による年間計画（Plan）、計画に基づく活動展開（Do）、進捗状況の確認・完了報告・評価・分析（Check）、前年度結果を踏まえた次年度に向けた見直し（Act）を1年間のサイクルとしている。



寺子屋事業の様子

香川大学 地域人材共創センター
087-832-1277

東かがわ市 総務部 地域創生課
0879-26-1276

※地域コミュニティ協議会：旧小学校区を活動範囲とする住民主体の任意団体
市内8地区設立（R4.4.1時点）

【連携取組の事例紹介】（抜粋）

- 寺子屋事業：市立中学3年生を対象に、大学生が講師となった寺子屋の開設（東かがわ市 地域創生課・学校教育課⇄香川大学）
- スマホ教室：地域住民を対象に、大学生が講師となったスマホ教室の開催（地域コミュニティ協議会⇄香川大学）
- 地域活動への支援：地域コミュニティ協議会が主体となる事業への若い人材力活用による支援（地域コミュニティ協議会⇄香川大学）

【連携取組の事例紹介】（三豊市）

自治体⇔大学等 自治体⇔企業・経済団体 など

- 四国学院大学とのインターシップ研修生派遣に関する連携
（年度毎にインターンシップ研修生派遣に関する協定を締結）
 - ・取組内容：（When）2011年～現在
（Where）三豊市内の放課後児童クラブ（市直営のみ）
（Who）四国学院大学の教職課程を選択している学生
（What）放課後児童クラブの支援員の補助
（How）インターンシップ生として受入
 - ・注目ポイント：支援員が学生の働きぶりを評価し、評価に応じて単位を
（面白い点）付与する仕組み
 - ・限界ポイント：H31年以降、コロナの影響により実施できていない
（お困り点）
 - ・PDCAサイクル：統一の評価シートを作成し、学生の社会人としてのスキルや子どもとの関りを
公正に評価。次年度以降の学生受入れに向けて、参考としている。
- ・参照先：（別紙、研修評価シート添付）

三豊市 健康福祉部
福祉事務所 子育て支援課
TEL:0875-73-3016
Email:kosodate@city.mitoyo
o.lg.jp

【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）
○香川短期大学×みとよMaaS（三豊市⇔香川短期大学大学）（<https://sites.google.com/kjc.ac.jp/kjc-mitoyo-pjt/>）

【連携取組の事例紹介】（土庄町）

自治体⇔大学等 自治体⇔企業・経済団体 など



土庄町域学連携交流事業

土庄町と地域連携活動を積極的に展開している大学が連携して、小豆島・豊島の魅力や地域資源を掘り起こすとともに、町民・島民の協力を得ながら地域が抱えるさまざまな課題を発見・分析・解決していく取り組み

包括連携協定を締結している大学

2015年11月5日～ 京都産業大学
2017年12月12日～ 武庫川女子大学
2018年10月17日～ 香川大学
2020年10月29日～ 徳島文理大学



京都産業大学

- ・島鯉プロジェクト（通称：ハモプロ）
- ・無料法律相談室（法律相談部）
- ・健康づくり講座
- ・むすびわざ大学

武庫川女子大学

- ・フィールドデザイン調査演習（生活環境学部）

香川大学

- ・ワーケーション実証実験（経済学部他）
- ・「地域をデザインする」（全学共通科目）

徳島文理大学

- ・石の古文書・石丁場調査（文学部）
- ### 神戸学院大学（現代社会学部）
- ・フィールドワーク
- ### 神奈川大学（経営学部）
- ・地域活性化プロジェクト
- ### 東京農業大学（国際食農科学科）
- ・フィールドスタディ
- ### 小豆島中央高校
- ・權風（かいふう）



【連携取組の事例紹介】（綾川町）

○包括連携協定

平成27年度に四国学院大学と包括連携協定を締結し、教育、芸術・文化、スポーツ、福祉、子育て支援などに関する分野で連携を図っている。

○多文化共生のまちづくりにおける連携

令和3年度から香川県、香川県国際協会及び香川大学の学生プロジェクト「綾川まちづくりプロジェクトwith」と連携し、多文化共生のまちづくりに関する取り組みを進めている。

学生とはミーティングへの参加、交流イベントへのスタッフ参加、交流イベントの企画等を通して連携を図っている。

○まちあるき事業における連携

令和3年度に香川大学の学生プロジェクト「綾川まちづくりプロジェクトwith」と連携し、綾川町まちあるき事業に関する取り組みを進めている。

その一環として実施したフォトゲイニングにおいては、実際に学生が綾川町内を歩き、学生目線でのポイントを提案してもらい、意見交換を行った。

【連携取組の事例紹介】（多度津町）

多度津町 ⇄ トキワホールディングス株式会社

○自治体の魅力発信に係る連携

- ・ 取 組 内 容 : (When) いつから : 令和4年1月24日（包括連携協定日）
(Where) どこで : 企業のSNS・ラジオ番組
(Who) だれが : トキワホールディングス株式会社
(What) なにを : まちの魅力情報
(How) どのように : twitterでのプレゼントキャンペーン
コミュニティFMへの生出演
- ・ 注目ポイント : 自治体側は原則予算ゼロ。今後も地方創生・SDGsの観点から互いのリソースを活かした連携を継続する予定。
- ・ PDCAサイクル : 連携実績を積み重ね、より良い連携に向けた定期的なミーティングを開催する。
- ・ 参照先 : 【URL】 <https://www.tokiwahd.com/radio>
【twitter】 @tokiwahd



※取組みに関する
問い合わせ先

多度津町政策観光課
0877-33-1116

【連携取組の事例紹介】（まんのう町）

自治体⇔大学等 自治体⇔企業・経済団体 など

○企業との包括連携協定に基づく連携

- ・取組内容 : 開始時期：平成27年度以降
連携先：コープかがわ、明治安田生命、
損保ひまわり生命、etc
- ・注目ポイント : 行政にとって課題となっている子育て支援や高齢者支援、
（面白い点）観光振興だけでなく、マンパワー的なボランティアス
タッフとしての支援をしてもらっている
- ・限界ポイント : 事業を伴わず、名ばかりの協定になってしまっている締
（お困り点）結先がある
- ・PDCAサイクル： 年に数回の報告会を実施し、情報交換や事業実施状況を
確認している



【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| ○ (. . 市⇔ . . 大学) | (HPアドレス、QRコード等付記) |
| ○ (. . 市⇔ . . 株) | // |
| ○ (. . 市⇔ . . 大学⇔ . . 連合会) | // |

【連携取組の事例紹介】（まんのう町）

自治体⇔大学等 自治体⇔企業・経済団体 など

○香川大学との連携

- ・取組内容 : 開始時期：令和3年度～
連携先：香川大学
特産品の販売拡大、交流人口の増、及び新たな商品開発
- ・注目ポイント : 業者への委託ではなく、大学研究室との連携である
（面白い点） 学生視点からのアイデアも出る
- ・限界ポイント : 公共交通が充実していないため、学生の移動が課題
（お困り点）
- ・PDCAサイクル : 年度末に実績報告を受け、引き続き次年度も連携を継続し事業に取り組んでいる



【その他連携取組の事例紹介】（抜粋）

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| ○ (. . 市⇔ . . 大学) | (HPアドレス、QRコード等付記) |
| ○ (. . 市⇔ . . 株) | 〃 |
| ○ (. . 市⇔ . . 大学⇔ . . 連合会) | 〃 |

【連携取組の事例紹介】（香川県）自治体⇄企業、大学等

- ・取組内容 : **ワーケーションを活用した関係人口創出事業**
 - (When) : 令和3年度
 - (Where) : 小豆島
 - (Who) : 株式会社リコー、小豆島町、土庄町、香川大学、NPO法人Totie等
 - (What) : 小豆島をモデル地域として、ワーケーションを活用した関係人口創出に係る実証事業を実施。
 - (How) : 島内事業者等（食品製造会社、漁業組合、高校等）が様々な地域課題を抱える中、そこにワーケーションを行う県外の都市部企業（リコー（外部人材、関係人口））が関わって、デジタル技術等を活用して地域課題の解決に向けた実践を行う。
- ・注目ポイント : 地域づくりの担い手の不足や高齢化が課題となる中、地域外の人材が特定の地域に関わる「関係人口」は、地域との結び付きにより、これまでにない視点で新たな取組みを生む可能性がある。（例：リコー社員の助言のもと、小豆島中央高校の生徒自身が欠席届システムを構築）
- ・限界ポイント : 外部人材と地元住民等の段取り役となり、また、地域課題と引き合わせる役となる中間支援組織が重要な役割を担うが、その組織が少なく、今後どのように見つけていくかがポイント。
- ・PDCAサイクル : 実践結果を検証 → 得られたノウハウを勉強会等で他の市町に提供
→ 関係人口の創出・拡大に向けた取組みの横展開

当取組みの問い合わせ先
香川県政策部地域活力推進課
電話：087-832-3105

マッチング(協働・学びの場)の例

食品製造事業者とのマッチング

生産工場における生産管理の現状と現場課題について議論

→ 製造現場を視察し、全体工程の確認を行い、アナログ部分のデジタル化の可能性等について議論。



ホテル(宿泊事業者)とのマッチング

予約事務や(キッチン)食事提供などのオペレーションを視察

→ ミスが発生する工程や、業務改善に向けた問題点を共有し、タブレット端末などデジタル機器導入の可能性について議論。



議題 3 地域課題へのアプローチ等

3 地域課題へのアプローチ等

地域課題への
アプローチ(案)



地域課題に
対する行動(案)



目指すべき姿(案)

地域課題の共有（①これまでの連携事例、②地域おこし協力隊の活動、③各構成員からの個別提案課題など）



アイデアソンを実施（若者目線による自由闊達な議論）



その成果の発表・共有



必要に応じ検証・実証

(キーワード)
「共創」
「共感」
「挑戦」

産学官連携（マッチング）による実践

若者が定着する魅力ある地域へ
（地域の持続可能性を高める）

【参考】アイデアソンについて

“アイデアソン”とは

多様な人材の集合知でアイデアが広がる

「アイデア(Idea)」と
「マラソン(Marathon)」
を組み合わせて作られた造語

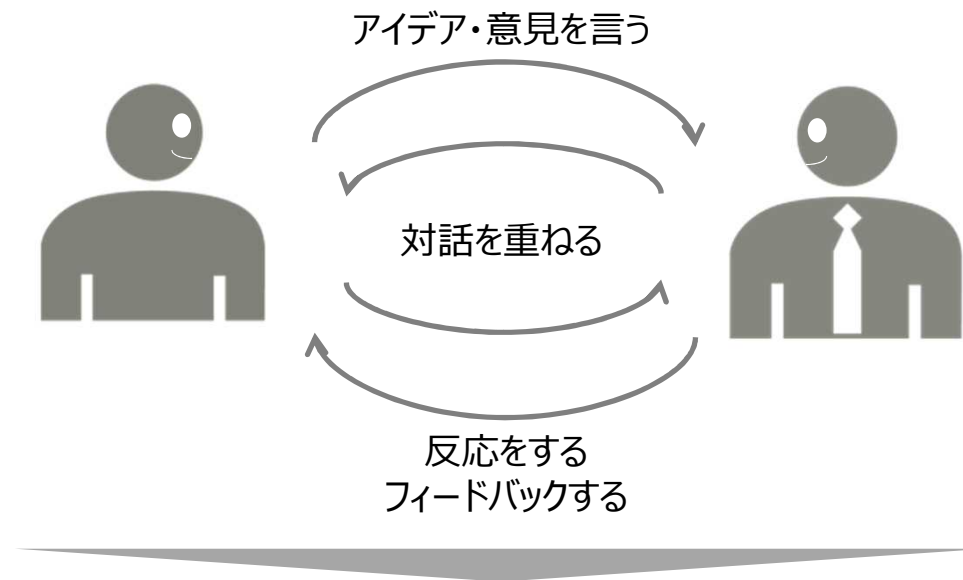
特定のテーマについて
多様なメンバーが対話を通じて
アイデアを出し合うイベント



【参考】アイデアソンについて

参加ルール

①立場は対等！（立場や年齢は関係ない）



多様な考えが融合し、よいものが生まれる

【参考】アイデアソンについて

参加ルール

② 普段できないことに挑戦！



【参考】アイデアソンについて

参加ルール

③答えはない。自分たちでつくる！



【参考】アイデアソンについて

プレスリリース

私は

実現のために

を解決する、

これまでの

とは異なる

を提供する。

それによって、

を実現する。

3 地域課題へのアプローチ等

本部会で行うアイデアソンの実施案

- ・ 実施時期 7月下旬（第1回実施）※第2回以降別途調整
- ・ メンバー（若者） 自治体職員（各市町・県：1名）＋
地域おこし協力隊（各市町：1名）＋
大学生（各大学：計〇名）＋
企業社員（計〇名）＝計〇名程度 ※別途照会
（1グループ5～8名×〇グループに分かれて議論）
- ・ 所要時間 3時間程度/日 ※2日間程度
- ・ コーディネーター 香川大学など
- ・ その他 必要に応じて検証・実証

議題 4 令和4年度の取組みスケジュール案

4 令和4年度の取組みスケジュール案

取組み・スケジュール

5月31日	第1回部会	現状等の共有、意見交換
6月17日	第2回部会	地域課題へのアプローチ等の共有
6月下旬	プラットフォーム運営委員会	アイデアソン等R4年度取組み・スケジュール等報告
7月中旬	プラットフォーム総会	同上
7月下旬～	アイデアソン実施 ⇒必要に応じてアイデアの検証	
未 定	アイデアソンを踏まえた実践	取組み可能なものから行う※
9月中下旬以降	第3回部会	アイデアソンの発表。内容を構成員で共有
	第4回部会	R5年度 of 取組みの方向性など

(※留意事項)

- ・令和4年度は事業期間及び予算の制限あり⇒小さな挑戦（実証・実践）が中心。

参考資料 1 連携協定一覧等

⇒ 別紙のとおり

参考資料 2 県内地域おこし協力隊の活動内容

- ・移住促進
- ・地場産品を活用した新商品開発
- ・商店街の活性化
- ・プログラミング教育、ICT支援
- ・空き家対策、利活用
- ・観光振興
- ・離島活性化 など



参照：香川県地域おこし協力隊 さぬきの輪WEB <https://sanukinowa.com>



さぬきの輪Instagram



さぬきの輪Facebook



さぬきの輪twitter